

Ⅲ ヒアリング調査からみた企業の声

1 製造業

(1) 一般機械器具

【景況感】

- ・北米向けEV関連の受注が増えており、好況である。
- ・産業機械関連は好調だが、半導体関連の受注が落ちており、普通である。
- ・中国のロックダウンと物流遅延の影響で生産が落ちており、不況である。

【売上高】

- ・半導体関連の受注高が落ち込んだ一方で、産業機械関連の受注高が増えた。
- ・売上高はほとんど変わらない。
- ・中国のロックダウンの影響で売上高は減少した。

【品目別の状況】

- ・シリコンサイクルの潮目が変わり、半導体関連は30%減少する見通しである。
- ・医療関連は、予防接種の注射器を中心に受注が増えている。

【受注単価】

- ・価格転嫁により受注単価は上がったが、希望単価の50%に留まっている。
- ・都度見積もりで価格転嫁を工夫しているが、ほとんど変わらない。
- ・値上げの交渉において細かいエビデンスを求められ、価格転嫁が進まない。

【原材料価格】

- ・円安基調で材料価格高騰に拍車がかかっている。
- ・鋼材価格は前年比30%上昇した。

【その他諸経費】

- ・エネルギー価格高騰で電気代が3割増加した。
- ・電気料金は前年比で1.5倍となった。

【採算性】

- ・原材料価格高騰の影響により採算性は悪くなった。
- ・価格転嫁が進まず、利益は前年比で半減した。

【設備投資】

- ・生産増強のため、新工場を建設する予定である。
- ・設備投資は決まっているが、機械の納期が遅れている。

【今後の見通し】

- ・シリコンサイクルで半導体の受注が落ちており、半導体関連は悪い方向に向かう。
- ・中国のロックダウン解除による生産安定と価格転嫁の進展により、良い方向に向かう。
- ・スポットの受注が多く、どちらともいえない。

(2) 輸送用機械器具

【景況感】

- ・自動車業界は半導体不足で生産が滞っている状況のため、不況である。
- ・乗用車に比べトラックの受注は安定しており、景況感は普通である。
- ・受注は増えているが、原材料価格が上がり続けており、景況感は普通である。

【売上高】

- ・受注量は前年比で若干落ちたが、価格転嫁により全体の売上高はほとんど変わらない。
- ・自動車以外の受注を増やしている。
- ・自動車メーカーの生産調整が続いており、売上高は減少した。

【受注単価】

- ・受注単価は上がったが、原価上昇分の半分も転嫁できていない。
- ・価格転嫁は主要取引先を中心に交渉し一部合意も得ているが、直ぐには反映されない。
- ・鋼材価格高騰分を価格転嫁し、受注単価が上がった。

【原材料価格】

- ・直接製品に使用される材料で10%、梱包資材や加工に必要な資材は15%の上昇である。
- ・鋼材価格の高騰が続いている。

【その他の諸費用】

- ・電気代負担が1.5倍に増えた。
- ・切削油、刃物なども値上がりした。

【採算性】

- ・電気代高騰と鋼材価格高騰により採算性は悪くなった。
- ・大手取引先との価格交渉の機会は限られており、採算性は悪くなった。
- ・電気代高騰分の価格転嫁が遅れており、採算性は悪くなった。

【設備投資】

- ・生産性向上、新規受注に対応するためNC旋盤を新規導入した。
- ・補助金を活用し、空調設備を省エネ仕様に更新した。

【今後の見通し】

- ・自動車向けの半導体不足は解消に向かうが、原材料高騰は続くため、どちらともいえない。
- ・メーカーの来年度計画は増産見込みだが、都度変わるため、どちらともいえない。

(3) 電気機械器具

【景況感】

- ・抗原検査キット等医薬品を取り扱っているため、特需がある。
- ・スマホ向けの半導体需要はピークアウトしており、不況である。
- ・昨年、一昨年のパソコン関係の特需は落ち着いたが、利益は出ているため、普通である。

【売上高】

- ・5G関連の受注が落ち込み、売上高は前年同期比で減少した。
- ・抗原検査キットの特需で売上高は増加した。

【原材料価格】

- ・石油、アルコール関連の値上がり幅が大きい。
- ・ウクライナ侵攻前の前年と比べ、原材料価格は大幅に上昇した。

【その他の諸経費】

- ・クリーンルームが24時間稼働のため、電気料金の値上がり幅が大きい。
- ・半導体関連は電気の消費量が大きく、電気代高騰による影響が大きい。

【採算性】

- ・電気代高騰と売上高の減少で採算性は悪くなった。
- ・コスト上昇分を売上高でカバーしており、収益性はほとんど変わらない。

【設備投資】

- ・空調設備等の設備更新を実施した。
- ・設備投資は実施しなかった。

【今後の見通し】

- ・5G関連の受注回復は春先を予想しており、どちらともいえない。
- ・感染症の状況によるが、検査キットの特需が終わるため悪い方向に向かうとみている。

(4) 金属製品

【景況感】

- ・来年以降は受注の減少が見込まれるため、景況感は普通である。
- ・建築関連の受注は安定しているが、製造業関連は低位で推移している。
- ・見積もりベースでは数が増えているが、受注には至らず、不況である。

【売上高】

- ・半導体サイクルで落ち込みがみられ、売上高は前年比で減少した。
- ・自動車関連の生産調整の影響で売上高は減少した。

【受注単価】

- ・受注単価は前年同期比で10%上がった。
- ・価格転嫁は一部に留まっており、前年同期比で受注単価は若干上がった。

【原材料価格】

- ・鉄、アルミニウム、ステンレスが値上がりした。
- ・薬品が高騰している。

【その他の諸費用】

- ・電気代高騰の一方で、残業代や在庫費用が減っている。
- ・電気代の負担が大きい。

【採算性】

- ・原材料、電気代負担により採算性は悪くなった。
- ・残業代が減った分、コスト削減ができており、採算性は変わらない。
- ・採算性はほとんど変わらない。

【設備投資】

- ・内製化のため塗装ラインの設備投資を実施した。
- ・工場、変電設備の補修を実施した。

【今後の見通し】

- ・新規案件は、原材料価格高騰の影響で価格合意が難しく、どちらともいえない。
- ・半導体不足による生産調整が終われば仕事が増えるが、先行きは不透明感がある。
- ・半導体需要は一旦落ち込む見通しのため、悪い方向に向かうとみている。

(5) プラスチック製品

【景況感】

- ・食品、医療関連以外でも受注が安定しており、景況感は好況である。
- ・建築、オフィス向けの需要はピークアウトしており、景況感は普通である。
- ・半導体不足を背景とした生産調整の影響で受注が減っており、景況感は不況である。

【売上高】

- ・半導体製造関連の部品受注が好調で売上高は増えた。
- ・仕事量は変わらないが、価格転嫁により全体の売上高は増えた。
- ・自動車、航空機、医療機器関連の売上高が減っている。

【受注単価】

- ・価格転嫁は100%できており、受注単価は前年比10%上がった。
- ・ほぼ価格転嫁はできており、取引先も製品の販売価格を上げている。

【原材料価格】

- ・合成樹脂の価格が上がっている。
- ・原油価格はピーク時より下落しているが、材料メーカーが値段を下げない。

【人件費】

- ・定期的な昇給で人件費は増加した。
- ・人件費は高止まりでほとんど変わらない。

【採算性】

- ・設備投資による生産効率の向上や外注費の削減により、採算性は良くなった。
- ・採算性はほとんど変わらない。
- ・価格転嫁は進んだが、電気代の高騰により、採算性は悪くなった。

【設備投資】

- ・物流センター建設に向け準備を進めている。
- ・設備投資は実施しなかった。

【今後の見通し】

- ・取引先が輸出拡大をしており、良い方向に向かうとみている。
- ・原材料の調達遅延、人員不足等不透明感が強まっており、悪い方向に向かうとみている。

(6) 食料品製造**【業界の動向】**

- ・仕入元である鶏卵業者や乳牛業者は飼料高騰の影響で経営が厳しい。
- ・納入先であるスーパー、小売店はエネルギー価格高騰の影響で淘汰は避けられない。

【景況感】

- ・夏以降、人の流れが変わってきた。得意先からの受注も回復し、好況である。
- ・家庭向け食料品の中で個食用の商品が伸びており、好況である。

【売上高】

- ・価格転嫁や新規取引により売上高は増えた。
- ・感染症が落ち着き、得意先からの受注が回復し、売上高は増えた。

【受注単価】

- ・春に値上げを実施したため前年比では上がっているが、今後は価格を据え置く方針である。
- ・9月に値上げを実施しており、前年比で価格は上がった。

【原材料価格】

- ・卵の価格が高騰しており、原材料コストへの影響が大きい。
- ・小麦粉は高値で一旦落ち着いているが、卵白や油の価格は上昇している。

【人件費】

- ・最低賃金の上昇に伴い、時給が上がっている。
- ・人手不足による人材の取り合いが起きており、人件費は上がっている。

【採算性】

- ・OEM商品の価格転嫁が進まず、採算性は悪くなった。
- ・コスト削減と効率化、利益率の高い仕事の受注により採算性は良くなった。

【設備投資】

- ・商品の容器を缶から紙へ切り替えたため、包装フィルム用の機械を購入した。
- ・新規大口受注に対応するため、製造ラインを整備した。

【今後の見通し】

- ・個人消費は戻ってきており、感染症が収束すれば良い方向に向かうとみている。
- ・新規の仕事も決まっており、良い方向に向かうとみている。

(7) 銑鉄鋳物

【景況感】

- ・EV、半導体関連部品の受注が好調であり、景況感は好況である。
- ・自動車関連は生産調整が続き、電気代高騰で生産コストが増加しており、不況である。

【売上高】

- ・価格転嫁による増加分が反映され、売上高が増えた。
- ・売上高はほとんど変わらない。

【受注単価】

- ・原材料価格高騰分を価格転嫁できており、単価は上がった。
- ・価格転嫁は部分的だが全体で受注単価は上がった。

【原材料価格】

- ・コークス、鋼材関連の高騰が続いている。
- ・円安の影響で輸入鋼材の価格が高止まりしている。

【人件費】

- ・時給を100円引き上げた。
- ・人件費はほとんど変わらない。

【設備投資】

- ・溶解炉の交換による設備増強を実施する。
- ・老朽化による設備更新を実施した。

【今後の見通し】

- ・EV、半導体関連の受注が安定しており、良い方向に向かうとみている。
- ・自動車の生産調整が長引いており、どちらともいえない。

(8) 印刷業

【景況感】

- ・ペーパーレス化に加え、コロナ禍でイベント自粛が続いており、不況である。
- ・景況感は不況である。
- ・建築関係のカタログ受注のほか、エンタメ関連も動き出したため、好況である。

【売上高】

- ・デジタル関係の業務が伸びており、売上高が増えた。
- ・売上高はほとんど変わらない。

【受注単価】

- ・10～15%の値上げ交渉を実施し、半分程度は価格転嫁ができています。
- ・リピート案件は価格転嫁が難しいが、新規案件を中心に受注単価は上がった。

【原材料価格】

- ・資材価格が15～30%上昇した。
- ・紙、インクは10～20%上がっており、円安でさらに値上げとなる見通し。

【採算性】

- ・資材価格高騰の一方で価格転嫁の厳しい交渉をした結果、採算性はほとんど変わらない。
- ・売上高は増加しているが、原材料価格高騰の影響で採算性は悪くなった。

【設備投資】

- ・印刷機の入替えに伴い、システムとサーバーを更新した。
- ・設備投資は実施しなかった。

【今後の見通し】

- ・足元の受注は安定しており、良い方向に向かうとみている。
- ・感染症の第8波次第であり、どちらともいえない。
- ・感染症の再拡大でイベントの延期が増えており、悪い方向に向かうとみている。

2 小売業

(1) 百貨店

【景況感】

- ・富裕層を中心に購買意欲が強く、好況である。
- ・景況感は普通である。
- ・業界全体では回復傾向にあるが、若干の不況感がある。

【売上高】

- ・行動制限がないことにより衣料品、服飾雑貨、化粧品の高売高が伸びた。
- ・生鮮食品は物価高の影響で売上が落ちている。

【諸経費】

- ・集客のためイベント開催を強化しており、広告費が増えている。
- ・電気代の負担が大きくなっているが、その他の経費削減を工夫し、トータルで減らした。
- ・諸経費はほとんど変わらない。

【採算性】

- ・売上高増加に伴い、採算性も前年比で改善した。
- ・採算性はほとんど変わらない。
- ・電気代高騰の影響で採算性は悪くなった。

【今後の見通し】

- ・行動制限が解除されており、良い方向に向かうとみている。
- ・感染症の収束次第であり、どちらともいえない。

(2) スーパー

【景況感】

- ・食料品の売上げが好調で、景況感は好況である。
- ・電気代高騰、物価上昇が続いており、景況感は不況である。

【売上高】

- ・食料品は前年比105%で推移している。
- ・生鮮食品は値上げの影響で売上高は落ちているが、惣菜は順調に推移している。

【諸経費】

- ・人件費は増やし、広告宣伝費は削減している。
- ・電気料金は前年比140%と高騰しており、今後も負担が増す見通し。

【採算性】

- ・節電を徹底しているが電気料金の負担が大きく、採算性は悪くなった。
- ・賃金の上昇、電気代高騰の影響で採算性は悪くなった。

【今後の見通し】

- ・食料品を中心に売上げは好調のため、良い方向に向かうとみている。
- ・電気代高騰分の価格転嫁は難しく、悪い方向に向かうとみている。

(3) 商店街

【景況感】

- ・行動制限がなくなりイベント開催もできたが、夜の客足が戻らず景況感は普通である。
- ・来街者数は戻っているが、物価高で消費マインドが落ちている。

【来街者】

- ・昼間は人通りが多くなってきたが、夜は来街者が少なく、お店も閉めてしまっている。
- ・来街者数は変わらない。

【個店の状況】

- ・経営者の高齢化が進んでおり、廃業を検討しているお店もある。
- ・夜営業の店が少なくなり、タクシーの営業も減っている。

【商店街としての取組】

- ・イベントはコロナ禍前の規模でできるようになっている。
- ・スタンプラリーを実施している。

【今後の見通し】

- ・人の流れがコロナ禍前と異なっており、どちらともいえない。
- ・旅行支援等が終われば来街者も減るため、悪い方向に向かうとみている。

3 情報サービス業

【景況感】

- ・DXへの取組が増加する一方、IT投資の先送りや縮小がみられ、景況感は普通である。
- ・燃料費高騰の影響で企業の経費削減、情報化投資の抑制がみられる。
- ・世間のイメージほど好況ではない。

【売上高】

- ・前年並みの大型案件を受注できたため、売上高はほとんど変わらない。
- ・自治体との契約は伸びているが、民間からの受注はほとんど変わらない。
- ・売上高はほとんど変わらない。

【製品価格】

- ・受注単価はほとんど変わらない。
- ・カスタマイズ製品が多く、個別では受注内容で異なるが、全体として受注単価は上がった。

【採算性】

- ・人件費の負担が大きくなり、採算性は悪化した。
- ・電気代負担が前年比で2倍となり、採算性は悪くなった。
- ・採算性はほとんど変わらない。

【設備投資】

- ・ネットワーク機器の更新、本社内装の改修工事を実施した。
- ・データセンターの未使用スペースをオフィスとして利用できるようにした。
- ・設備投資は実施しなかった。

【今後の見通し】

- ・社会全体の景気次第であるが、IT投資需要により良い方向に向かうとみている。
- ・エネルギー価格の高騰や半導体不足など不透明感が強まっており、どちらともいえない。

4 サービス業（旅行業）

【業界の動向】

- ・学校関係を中心に回復がみられるが、民間旅行者はまだ少ない状況である。

【景況感】

- ・バス利用も一部で戻ってきており、景況感は普通である。

【受注高】

- ・学校関係の校外学習や部活動の再開に伴い、売上高は増加した。

【受注価格】

- ・ガソリン代上昇分を価格転嫁しており、受注価格は上がった。

【採算性】

- ・売上高増加に伴い、採算性は良くなった。

【設備投資】

- ・実施していない。

【今後の見通し】

- ・観光シーズンのピークが終わり、感染症第8波も懸念されるため、悪い方向に向かう。

5 建設業

【業界の動向】

- ・近隣同業で廃業等の新しい動きはなかった。
- ・中小零細の工務店や建築業者は価格高騰の影響で廃業が増えていく。

【景況感】

- ・公共工事、民間工事ともに安定しており、景況感は普通である。
- ・仕事量はあるが、資材価格や外注費が高騰しており、不況である。

【受注高】

- ・大型案件は継続して受注できており、売上高はほとんど変わらない。
- ・戸建て販売のペースが落ちており、前年比で売上高は減少した。

【受注価格】

- ・資材価格高騰分の価格転嫁により受注単価は上昇している。
- ・公共工事は適正に価格転嫁ができています。

【資材価格】

- ・鉄、RC鋼材の価格高騰の影響が大きい。
- ・木材価格は高止まりしている。

【採算性】

- ・資材価格高騰の影響で採算性は悪くなった。
- ・電気料金、燃料費が高騰しており、採算性が悪くなった。

【今後の見通し】

- ・資材価格の高騰が続いており、どちらともいえない。
- ・物価高により設備投資を控える動きが予想され、悪い方向に向かうとみている。